

# グローバル時代の 知的財産戦略 ⑦

土生特許事務所

弁理士 土生 哲也氏



(はぶ・てつや)  
1989年京都大学法学部卒業、日本開発銀行現  
・日本政策投資銀行) 入行。知的財産を担保にした  
ベンチャー企業向け融資などを担当。2000年弁  
理士登録、01年土生特許事務所開業。特許実務のほ  
か、特許庁や経産局で中小企業向け知的財産戦略関  
連事業の委員を歴任。著書に『元気な中小企業はこ  
こが違う! 知的財産で引き出す会社の底力』(き  
んざい) など。

■中小企業の知的財産  
に関する問題点とは  
中小企業経営者に  
は、「わが社には知的  
財産は関係ない」とい  
った考えを持つ人が少  
なくない。  
また、中小企業が知  
的財産を生かすために

は、資金面の支援や専  
門人材の育成が必要と  
指摘されることが多い  
が、これらは問題の本  
質ではない。  
知的財産とは商品や  
サービス提供に様々な  
工夫を凝らす過程で生  
まれるもので、意識し

知財マネジメントに取  
り組むことには、他社  
を排除するという対外  
的な効果だけではな  
く、社員の意識を向上  
させ、会社に活力を生  
むという内面的な効果

大切なのは取り組む  
順序で、最初に「特許  
取得ありき」の発想で  
は本末転倒だ。起点に  
なるのは、「経営や事  
業の課題は何か」であ  
り、それらの課題の中

特許を取得してどう  
活用するかといった  
「下から」の発想では  
なく、経営課題を起点  
に「上から」考えるこ  
とがポイントになる。

なパートナーと提携し  
て、事業展開を加速す  
るといった視点も重要で  
ある。この場合、特許  
権はパートナーと繋が  
るための有力な材料に  
なる。

経営資源に限りのあ  
る中小企業には、全て  
を自社でやろうとする  
のではなく、周囲の力  
を自らの事業展開に生

かしていくという発想  
が必要だ。  
知財マネジメントに  
熱心に取り組む中小企  
業を訪問すると、社員  
の方々がとても生き生  
きと仕事をしているこ  
ろが共通点がある。  
その背景には、知財  
マネジメントに取り組  
む過程で気付く「他社  
にはできない特別な仕  
事をしている」という  
誇り・自信がある。こ  
うした知財メンジメン  
トの内面的効果が、社  
内の活力を生み、会社  
の魅力となって周囲の  
協力者を引き寄せてい  
る。そうした側面も意  
識して、知財メンジメ  
ントに取り組んでいた  
だきたい。(談)  
(おわり)

## 知財マネジメントの内面的効果の認識を

ていなくても多くの中  
小企業に存在してい  
る。  
その存在を意識して  
進め方のポイントを

■知財マネジメントの  
進め方のポイント  
かせるかを考え  
ていくことが必要であ  
る。

知財マネジメントに取  
り組む目的が明確にな  
る。それに応じて、社  
内の役割分担やワーク  
フローの整備といった  
仕組みを構築してい

■海外での知財メン  
ジメントのあり方は  
企業活動のグローバ  
ル化に伴い、知的財産  
というと模倣品対策が  
クローズアップされや  
すい。  
しかし、中小企業に  
とって、海外で模倣品  
を完全に排除すること  
は容易ではない。模倣  
品の排除という意識だ  
けでなく、現地で有力

た戦略論や法律論に目  
が行きがちになる。し  
かし、権利の力で他社  
を排除して事業を独占  
するという視点に固執  
しては事業の広が

かしていくという発想  
が必要だ。  
知財マネジメントに  
熱心に取り組む中小企  
業を訪問すると、社員  
の方々がとても生き生  
きと仕事をしているこ  
ろが共通点がある。  
その背景には、知財  
マネジメントに取り組  
む過程で気付く「他社  
にはできない特別な仕  
事をしている」という  
誇り・自信がある。こ  
うした知財メンジメン  
トの内面的効果が、社  
内の活力を生み、会社  
の魅力となって周囲の  
協力者を引き寄せてい  
る。そうした側面も意  
識して、知財メンジメ  
ントに取り組んでいた  
だきたい。(談)  
(おわり)

もめる。  
そうした知的  
財産の多様な効  
果を多くの中小  
企業に伝え、各  
社が抱える経営  
課題にその効果  
をどのように働  
かせるかを考え  
ていくことが必要であ  
る。

に知財マネジメントの  
効果がうまく作用する  
ものがないか検討す  
る。  
そして、課題と効果  
をマッチングさせるこ  
とによって、自社が知  
財マネジメントに取り  
組む目的が明確にな  
る。それに応じて、社  
内の役割分担やワーク  
フローの整備といった  
仕組みを構築してい

■今後の中小企業の知  
的財産戦略に求められ  
る視点を  
知的財産という所得  
として、「特許を取得  
し、権利を生かして事  
業を独占する」といっ  
た戦略論や法律論に目  
が行きがちになる。し  
かし、権利の力で他社  
を排除して事業を独占  
するという視点に固執  
しては事業の広が

かしていくという発想  
が必要だ。  
知財マネジメントに  
熱心に取り組む中小企  
業を訪問すると、社員  
の方々がとても生き生  
きと仕事をしているこ  
ろが共通点がある。  
その背景には、知財  
マネジメントに取り組  
む過程で気付く「他社  
にはできない特別な仕  
事をしている」という  
誇り・自信がある。こ  
うした知財メンジメン  
トの内面的効果が、社  
内の活力を生み、会社  
の魅力となって周囲の  
協力者を引き寄せてい  
る。そうした側面も意  
識して、知財メンジメ  
ントに取り組んでいた  
だきたい。(談)  
(おわり)

かしていくという発想  
が必要だ。  
知財マネジメントに  
熱心に取り組む中小企  
業を訪問すると、社員  
の方々がとても生き生  
きと仕事をしているこ  
ろが共通点がある。  
その背景には、知財  
マネジメントに取り組  
む過程で気付く「他社  
にはできない特別な仕  
事をしている」という  
誇り・自信がある。こ  
うした知財メンジメン  
トの内面的効果が、社  
内の活力を生み、会社  
の魅力となって周囲の  
協力者を引き寄せてい  
る。そうした側面も意  
識して、知財メンジメ  
ントに取り組んでいた  
だきたい。(談)  
(おわり)